

## 山岳観光開発と災害：ネパールヒマラヤの判断

ダナンジャイ・レグミ（ネパール観光庁長官）

カビンドラ・バッタ シタラム・ダハール（共同著者）

ツーリズムは、ネパールのGDPに貢献する主要な一つである。観光が2019年に直接的あるいは間接的な仕事で100万ドル以上提供する中で、世界銀行は観光会社の貢献でネパールGDPのおおよそ3.6%を算出したとしている。ネパールの観光の歴史は、外国人登山が山岳観光のため、最初の目的地に開設されたヒマラヤの頂上に到達する1950年代に遡ることになる。それ故、山岳地域はネパールの観光から切り離すことはできない。しかしながら、唯一の山岳地域は、気温の上昇、降水量の変化、氷河の融水、がやがやという音のように予想のできない極端な出来事、雪崩、氷河湖の爆発的洪水、土石流、地滑りなど、進行する地球的現象から影響を受けており、このことは山岳地域の観光客だけでなく、直接的、間接的に山岳観光に依存して生活する地域社会の家々にも影響している。このことに評価する緊急の必要性があり、そして山岳地域の生態系の過程や構成要素を理解しながら、地域の安全性を訪問者や地方のコミュニティに知らせることである。ここでは、現在可能な忠告、山岳地域のリスクを小さくするための将来の密接な関係、訪問者や地方のコミュニティの安全を保証することについて報告する。このため、私たちはネパールの山岳地域で、過去数十年間と最近の多くの出来事を再調査した。なおその上で、観光掛け金の保管人の多様なグループと地方のコミュニティとの厳格な話し合いやシナリオの評価、極端な出来事の再調査、状況の分析や政策ギャップの評価を基礎とする鍵となる政策の忠告など、トレッキングのアプローチや登山者のトレイルリスクの評価などについて提案してきた。さらに進んで、見せかけの紙では政策作成者を含む主要な掛け金の保管人、持続的土地利用計画に関する科学者コミュニティ、トレイル様式などを質問し、そして氷河に対する心構えのための共有の努力の必要性と、すべての山岳観光コミュニティの安全性を維持する山岳ハザードを強調した。

キーワード：山岳観光、ハザード、評価リスク、トレッキング、登山

（訳：水嶋 一雄）